卒業生インタビュー・シリーズ （その 16）

佐川　博敏 （さがわひろとし） 様　　サンワ・リノテック株式会社　取締役会長

はじめに

(会長)　「各界で活躍されている同窓生への会長インタビュー」は，各界でご活躍されている大阪大学工学部をご卒業された方々に，活躍の原点や努力の源，大学への思いなどをお聞きし，お話し頂きました貴重なご経験や大阪大学工学部への想いをインタビュー記事としてまとめ，大阪大学工業会のホームページ（Techno-Net）で公表させて頂いております。本日は，サンワ・リノテック株式会社取締役会長 佐川 博敏様にインタビューさせて頂きます。

佐川様は，1973 年に大阪大学工学部石油化学科を卒業され，1975 年大学院工学研究科 石油化学専攻修士課程を修了後，同年に，スイスに本社を持つ総合化学会社の日本チバガイギー株式会社に入社され，薬品ではなくエポキシ樹脂の研究開発に携わられました。その後、1986 年に同社を退社され，お父様が 1955 年に創業された株式会社三和に入社されました。1995 年に株式会社三和の社長に就任され，2003 年には株式会社サンワ・リノテックを設立され，2021 年に後任に譲るまで社長を務められ，同年取締役会長に就任され現在に至っておられます。

株式会社三和は，創業時から塗装用品・刷毛・ブラシの販売を主とした事業を進められてきましたが，建設機械のレンタル事業も開始され，更には，1988 年のアスベストショック（自治体宛ての「建築物内に使用されているアスベストに関わる当面の対策について」の通達）などを経て，アスベスト対策用保護服の販売など，環境をキーワードとした事業で差別化を図られ，2003 年に修復事業をもう一つの柱にしたサンワ・リノテック株式会社を設立されました。2021 年には事業承継を成し遂げられると共に，近年は，エポキシ樹脂の技術力を活かして，世界遺産の保存・補修などへも尽力されており，ある意味文化を重んじる文化人ともいえます。本日は，これまでの事業展開の意義や熱い想いについて語って頂くと共に，今も海外，特にヨーロッパへの想いが強く，最近ヨーロッパの文化財めぐりから帰国されたところであり，その想いについてもお話し頂きます。

環境対策機器で安心・安全を生む差別化を

(会長)　それでは，インタビューをはじめさせて頂きますが，はじめに，社名の「サンワ・リノテック」の由来についてお聞きいたします。

(佐川会長)　社名の由来は，先代からの「**サンワ**」（ 1955 年創業）を維持しつつ，Renovation（修復）と Technology（技術）を合わせた造語の「**リノテック**」の合成です。サンワ・リノテック株式会社は 30 年あまりの歴史を持ちます。「テック」が名前に付いている企業は他にも多いようなのですが，後ほど詳しくお話ししますが，半分趣味のようでもありる，文化財の**保存・修復**にまでも活かせる技術力という点で**差別化**を考えています。

この修復については，大学修了後に働いておりました日本チバガイギー株式会社での**エポキシ樹脂**の接着剤としての研究開発の仕事とも大きく関係しております。

（会長） お話のように御社は，お父様が創業された会社ですが，その後の事業の展開をお話し頂けますか。

（佐川会長） 会社の創業は，私の父親の佐川重徳が 1955 年に**三和刷毛ブラシ製作所**を設立したことに始まり，そこでの主なお客様は造船・橋梁メーカー，塗装工事職人さんでした。その後 1965 年頃から，お付き合いの多かった建設業界の様子を見て，建設機械のレンタルを開始しました。この**レンタル事業**は，主体は変わりつつも，現在も我が社の大きな柱になっています。

（会長） 御社の大きな柱に**環境**というキーワードの営業活動があるようですが。

（佐川会長） そうです，我が社の強みにもなりました**有害物質対策向けの特殊機械のレンタル**が他社との差別化ができていると思います。汎用建設機械のレンタル市場は価格競争が厳しいですが，わが社の特殊分野での活動が大きな特徴となって生き残りに繋がっています。

アスベスト（石綿）は，耐熱性や防音性，絶縁性など様々な特質を有していることから，非常に重宝され，船舶関係や建材製品に多く利用されてきました。しかし，石綿を含むじん肺に対する被害の認識が始まり，1970 年代には石綿による肺がんの労災認定もなされ，危険性の認識が広がりました。2005 年には，**クボタ・ショック**と呼ばれる，中皮腫など石綿関連疾患の患者が多数発生し，合計 79 人が死亡したと発表されるという出来事が起こり，アスベストの危険性が社会にさらに露見することとなりました。当社はそれまでも環境対策機器などのレンタル事業を進めておりましたが，クボタ・ショックは大きなブレークイベントとなり，**アスベスト除去工事関連の解体工事，保温工事業，防水工事業などの特殊な工事分野**が事業の柱として成長しました。

主な当社の商品は，環境対策レンタル品，環境対策 販売品，下地処理，更に洗浄機などの汎用品となります。アスベスト問題や PCB・鉛・ダイオキシンの除去に係っておられる工事業者様に必要な機器・資材を提供して，お客様のニーズに応え，安心と安全を届けるべく事業を展開しております。

特にアスベスト対策工事については 1987 年の学校アスベスト（1 次アスベストショック），2005 年のクボタ・ショックから現在に至るまで工事全般に関わるアドバイザーを務めています。特殊機材のレンタルだけでなくてアスベストの定性分析の受託から自社ブランドの機械や除去薬剤の開発に成功しています。

めざす経営理念とミッション・ステートメント：信念・感謝・共に前進・心のときめき

（会長） このような事業展開で目指されている企業理念・ミッションなどについてお聞かせ頂けますか。

（佐川会長） 我が社は，社是として，

「おもしろおかしく，人に笑顔を，そして，好奇心をもって，ワクワク働くこと」

を掲げており，社員には笑顔で楽しく働き，興味深い，幸せな人生につなげることを意識してもらっています。

私が考える経営理念は，

- 私たちはめざします。：**現場と工場をより快適により安全にすることを**
- 私たちはめざします。：**お客様と心をつなぎ世の中の役に立つことを**
- 私たちはめざします。：**自らの夢，自らの幸福の実現を**

として公表しています。

そして，ミッションとしては，

ビジネス・ミッションステートメントとして：

「私のビジネスの使命は，確固とした信念を持ち，自分に関わるすべての人から感謝され，共に感動しチャレンジする志を持ち，サンワリノテックを成長させていくこと。」

そして，

パーソナル・ミッションステートメントとして：

「私の生涯の使命は，確固とした信念を持ち，いつも前向きに行動し，自分に関わるすべての人と対話を通じて，共に喜び・笑い・共に前進し，毎日自分自身の心をときめかすことを継続すること」

としています。

（会長） ここで主張されている「**感動**」することを大切にとの話しは，非常に大切な気がします。私も常に，「**不思議**」に思うことと結果への「**感動**」を大切にと言っており，正に同感ですね。このような会長様の考えは十分に社員さんに伝わっていますか。

（佐川会長） 経営理念については，毎日の朝礼でも社員が意識・理解することを願って，唱和するようにしております。

お客さんとの対話においても，このような理念・ミッションに従って行い，もし違うようなことを言われたら断っても良いと常々伝えています。

塗装に活きた刷毛事業から文化財の保存・修復事業も

（会長） 事業経営についての前向きなビジョンについてお話を伺いましたが，最近は特に世界遺産や文化財の保存・修復などに注目され，事業展開も図られているようですが，その経緯などをお話しいただけますか。

（佐川会長） 事業というべきか，私の趣味かも知れませんが，**文化財を** Renovation and Restoration することが重要との考えのもと事業にも展開しました。この分野で世界的に知られている奈良文化財研究所の先生達とも知りあえましたし，基本は，「文化財の保存・修復活動」「世界遺産を巡り地球を駆ける」という壮大な**ロマンと夢**にあり，歴史的構造物を後世に残したい，文化財の保存をライフワークとしたいとの想いが背景です。

その背景にあるのが，大学を修了して入社した日本チバガイギー株式会社でエポキシ樹脂の開発研究を行ったことが背景にあります。チバガイギーでは，製薬部門でなくてプラスチック部門に配属になり，エポキシ樹脂の開発研究，すなわち接着剤用途などの開発研究を行っていました。そこにもう一つの背景があります。それを活用して，広島の原爆ドームの修復工事を行ったのですが，それ以来，奈良文化財研究所の先生達とも親しくさせてもらって，海外へも学会などでご一緒させてもらいました。

（会長） 創業は刷毛ブラシだったのですが，それが Renovation に広がったのは何か契機があったのでしょうか。

（佐川会長） 刷毛ブラシは卸売りをしていたのですが，造船とか橋梁会社がお客様でした。かつては大正区に橋梁メーカーさんが多くて，鉄骨塗装の需要が多くありました。橋梁にしろ，造船にしろ，構造体ができあがって塗装に入ると我が社の刷毛の出番となり，下処理，防錆処理のさび止め，本塗装と刷毛が活躍します。その塗装を担う‘〇〇塗装’という企業が我が社のお客様です。塗装にもいろいろなレベルがあり，刷毛の活躍の仕方も変わってきます。鉄鋼構造物は，鉄はさびますので，防錆は重要となりますが，例え良い塗料でも，塗装の技術が重要になり，塗装の質へも刷毛は貢献したでしょう。

そこからレンタル事業へ入ったのは，当時阪神高速など大きな工事が多く，小売り会社さんから，刷毛だけでなく，塗装や付属処理などの機械の要望があり，買って持って行くことでレンタル事業は始まり，比較的小さな機械ですが，需要が多くて拡大し，利益率も高かったのです。

ただ，建設業界のレンタルは大きなマーケットではあるのですが，我が社のレンタル機器はニッチな分野で，やはりアスベストが大きな柱とはいえ，何か次の事業と考え，Renovation 事業への展開も考えました。

先にも話しましたようにチバガイギーでエポキシ樹脂の知識があったことが原爆ドームの修復につながり，先生方との繋がりで，文化財・遺産の修復に刷毛が使われること，また，特殊な防護服のような作業着などはアスベストなどで培った技術が生きることもあり，**歴史的構造物を後世に残したい**との想いで，文化財の保存をライフワークに考えるに至りました。

我々の材料が活きた例としてはイースター島の**モアイ像**の修復があります。壊れた石像をセメント系モルタルで繋ぐと後でアクが出てくるのですが，この用途に開発したエポキシ樹脂をベースに開発した製品で接合するとそのようなこともなく，雨でも自然の濡れ色となり，樹脂特有の光沢がでなくて本来の風合いが出るということで採択され修復されました。私も現地に暴露試験などの初期試験から 10 日間行きましたが，これは大きな経験となり Renovation 事業の展開を模索しました。ただ，市場のニーズが高くない状況です。

（会長） 御社の収入源であるレンタル事業はまだまだ健全ですか。

（佐川会長） そうですね，まだまだ需要があって，例えば橋梁などのインフラの経年劣化が激しいですから，その補修などでは機器のレンタル需要は，これからもまだまだ続くと期待しています。近年環境問題に対する意識が高まり法令の整備もあり，我が社のビジネスも着実に伸びています。

大阪大学の化学系を目指す：大学紛争を経験して

（会長） 御社の事業や経営の方向性などについてお話を伺ってきましたが，ここで少し遡って，大学へ入られた時の状況についてお伺いいたします。工学部の応用化学系を選ばれたのは何か契機がありましたのでしょうか。

（佐川会長） そうですね，大学の応用化学科を選び，入学後学部進学の時に**石油化学科**に分属になりました。

その化学系を選択したのは，中学の時に夏休みの課題の実験で，**ミョウバン**の 30 ミリ大の結晶を作ったのと化学反応で溶液の変色に驚き，化学は面白そうだと興味を持ったことが動機です。

入学して，石油化学科に配属になったのですが，石油という名前にはなぜという感じもありましたが，当時は今と大きく異なって石油化学が世の中を救うようなイメージもあったようです。

(会長)　大学に入られて，その時の印象はどうでしたか。

(佐川会長)　私の世代は政治闘争が盛んで，**大学紛争**の時代であり，所謂 70 年安保の時代で，東大の入試が中止され，多くの大学が学生によるバリケード，ロックアウト，デモ参加など騒然とした時代でした。ある意味，現在の様子からは想像もできない時代で，大阪大学もその当時のイ号館をはじめ，多くの建物の封鎖などによって，授業が開催されずに学生集会や大衆団交と称するものが行われていた時代でした。私自身当時はノンポリ・ノンセクトでしたが，結局のところ入学して入学式はあったけども，６ケ月間は授業がなくて，結局，教養課程は１年だけで吹田キャンパスの学舎へと通いました。

1 年次の前期は，豊中では講義もできない状態でしたので，吹田の移転した新しい建物で，学部の先生方が教養部で講義ができないのはかわいそうだということで特別授業をして頂きました。一部は工学部の旧学舎の東野田で授業したこともありました。ありがたかったですね。

(会長)　大阪大学工学部は東野田にあったという記憶がある人は少なくなりましたが，私は学部が東野田で，大学院１年の終わりに新築の吹田キャンパス学舎に引っ越ししました。実験機械や器具も同時に移転で，とにかく皆で梱包などの大変な作業であったことが思い出されます。

東野田の学舎は，敷地が 2 万坪ほどで，そこに全学科が入っていたわけで，そこでは拡張の可能性もなく，それで岡田総長先生が学部長の時代に吹田移転を決定されたのです。ただ，学生からすると，東野田(京橋)は麻雀屋など遊ぶところが多くて楽しいところでもありましたが。

(会長)　このような状況からは，教養教育はほとんどなかったですか。

(佐川会長)　そうですね，例えばドイツ語などの講義はほとんど無かったですね。数学もあまり記憶にないですね。何かもったいない感じがしました。

(会長)　化学系は工学部の中でも吹田キャンパスへの移転が最初だったのですが，学部に来られたときは，まだ，工事中でしたから道がぬかるんでいたりと，まだまだ大変なときだったかと思います。

(佐川会長)　吹田での思い出は，**桜並木**が綺麗だったという印象です。応用化学の全体の同窓会が「桜花会」というのも桜の印象からうなずけました。

(会長)　現在は，建物が次々と建ち，以前の工学部周りの桜の木も切られてしまって，残っている桜が少ないのは残念ですが。

（佐川会長）　大学に入って人の繋がりができたことは，後々も大切で，大学の同窓会には積極的に参加するようにしています。また，大阪大学を卒業したことで繋がりができるという意味からも，全学部横断している大阪大学卒の経営者の集まりの「銀杏会」などにも参加させて頂いています。

（会長）　学部での卒業研究はどうでしたか。

（佐川会長）　卒業研究での研究室配属では，化学系の協力講座であった産業科学研究所の桜井研に所属していました。この間は，実験も真面目にやりましたし，夜遅くまで研究していました。ただ，化学系の実験では反応時間待ちが長い場合があり，産研の横にある専用のテニスコートでテニスはよくやっていました。反応時間待ちというのは多少言い訳でもありますが。その時間の長さからも，産業科学研究所は，充実した研究施設もあり，スペースや設備などいろいろな待遇面はよかったとの印象です。

（会長）　そうですね。化学系の研究は，反応時間待ちがあって，多くの研究室では夜遅くとか徹夜ということが多いと聞きました。

私が工学研究科長の時代に，化学系の建物で夜中に火災があって，その時残っていた学生がいち早く見つけてくれて大きな被害にならなかったことがありました。学生さんが徹夜していたということが幸いでした。

修士課程での海外経験から憧れの外資系会社に入社して

（会長）　卒業後は修士課程に進学されたのですが，その時の想いは。

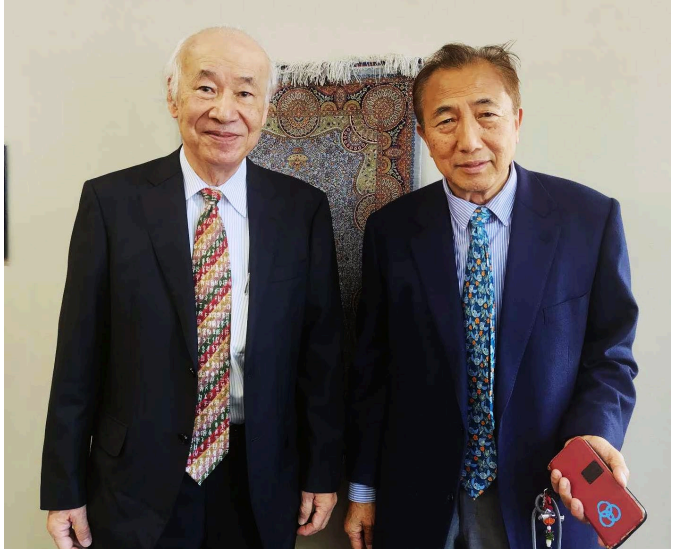
（佐川会長）　私たちの時代には，卒業生の半分ほどが大学院に進学していまして，それほど深い考えもなかったのですが，もう少し学生でいたいというのが本音です。周りを見ても進学の理由はそれほど明確に持っていたとは思われず，なんとなくという感じでしたが，大学院に入っての経験は非常に良かったと今では思っています。

ただ，我々の時代は東大の入試がなかった時代で，大学院の進学で東大に多くの学生がいったのも特徴かも知れません。

（会長）　このように学ばれて就職されるのですが，外資系の日本チバガイギー株式会社に入られた動機は何ですか。

（佐川会長）　修士１年のときに交換学生（IAESTE　**イアエステ**）で　ノルウェーのオスロ大学で２ケ月間合成化学の研究をしました。その研修後に，若干の給与ももらったので，バックパッカーとして２ケ月間ヨーロッパを旅しました。一等席が乗り放題のユーレイルパスを買い，ときには車内ベッドで寝ながら，またオスロで知り合った各地から来た学生たちの家に泊まらせてもらったりもしました。その時に日本への帰途テヘランで途中下車して，阪大に留学していた石油化学のイラン人女性同窓生の家にも寄りました。そのヨーロッパ放浪のときに７日間ほど廻ったスイスの美しさに感激し，スイスへ行ける機会がありそうな会社を探した結果スイス本社の日本チバガイギー株式会社を見つけ，応募して採用されたので入社しました。

このように就職は，**スイスへの憧れ**が一つの大きな要素でした。



（会長）　イアエステで海外インターンシップに行かれたのですか。私の研究室でも一人ドイツに行った学生がいたのですが，帰国したときにかなり取り組み方が変わった感じがしました。このように海外体験は大きな経験だと感じました。

　イアエステでのインターンシップの経験はどうでしたか。

（佐川会長）　イアエステで海外に行く人は英語圏が多い中，私はあえてほかの国を選択することにしました。そしてノルウェーに行くことになりましたが，英語は皆さん話されるし，街は綺麗でしたね。軽い気持ちでいったのですが，ノーベル賞をもらった人の孫弟子という先生に，かなり真剣に指導を受けて研究を行いました。

　ただ，ノルウェー・オスロは北緯 60 度と緯度も高く，夏にいったのですが，9 月中頃には 4 時頃には暗くなるし，朝も出かける頃は暗いしと，冬が近づくにつれ住みにくい感じもしました。でもフィヨルドなどの自然は素晴らしいです。

その後訪れたスイスはその山々は美しく，素晴らしいと感じました。

（会長）　本社はスイスのどこにあるのですか。

（佐川会長）　スイスの北西部，ライン川沿いで，チューリッヒ，ジュネーブに次ぐスイス第 3 の都市**バーゼル**です。バーゼルは，化学工業が早くから発達し，現在も製薬会社ノバルティスやロシュなどの本社があります。

　チバガイギーはサンドと合併してノバルティスとして 1996 年に設立されています。ただ，日本では，日本チバガイギーとしてノバルティスの医薬品生産部門の日本法人として，その名前が残っています。

（会長）　外資系の会社に入られたのですが，日本の会社と違うところを感じられましたか。

（佐川会長） 米国系とはかなり違うでしょうが，歴史もあり特許で守られているという感じがし，働き方もゆっくりしていて，5 時には全部退社で，休日も多い感じで，働き方に余裕が感じられましたね。初めて海外出張するときには，特別なお金にスーツケースまで頂いて，ここにも余裕が。また　ビッグイベントで日本チバガイギー30 周年の時に抽選があって 1 等賞が当たって，家内とスイス・ギリシャ旅行もさせて頂きました。

（会長）　その後お父様が創業された会社へ戻られたのですね。

（佐川会長） そうです，**11 年**たって，父の後継として今の会社に入りました。チバガイギーでの 11 年間は技術開発・営業などを学び，また，スイス本社での研修・会議などの海外体験と同時にユーザー訪問の体験も貴重な財産となりました。退社する時には上司の承諾をもらうのに時間をかけました。

大学には誇れる成果を，学生さんには海外経験と語学力を

（会長） 外資系，特にスイスの会社で，本当に貴重な経験になったのですね。

話は変わりますが，大学との連携や，大学に望まれることはありますか。

（佐川会長） 現在はあまり共同で何か行うということはしていません。**同窓会**などの活動には積極的に参加し，人の繋がりは大切にしています。

阪大の**中之島センター**にはよく行くのですが，改修されて実に綺麗になっていますね。多くの方々や企業のサポートで 80 周年記念事業として実施されたようですが，大学のステータスとしても良いものができ，卒業生としても誇りに思いますね。

大学に望みたいことは，中之島センターの建物としての魅力と共に，大学の教育・研究活動で，誇れるような実績を期待したいですね。その成果が，**我々卒業生の誇り**にもなり，さすが阪大といえるでしょう。

（会長） 是非現役の皆様に期待したいですね。

また，今の学生さんに何か望まれることがありますか。

（佐川会長） 今の学生さんはよく学ばれ，豊富な知識をお持ちのようで，また，就職などに当たって，世の中のことについても，我々が気にしなかったことまで知識を持っておられますが，そのようなことは後でもできるのだから，やはり大事なことは「**大志をいだけ**」ではないでしょうか。若い人は，常に Ambitious をもって頂きたい。大学に閉じこもってないで，早い話，**海外へ**出かけ短期でも良いから留学や遊学をしてみて欲しいですね。

（会長） 現在は海外からの留学生はコロナ前に戻ってきて，順調に増加しているようですが，日本から海外へ行く留学生の数が少なく，大学も海外留学生の数に目標値を定めているのですが，なかなか満足する形には進んでいないようです。

（佐川会長） 目標値を定めて進められているのですか。一度海外に出ると，その刺激はきっと大きな成長に繋がるものです。積極的に取り組んで欲しいですね。「実際に」，「実地で」が大切で，いくら言葉ができても，現地でコミュニケーションを図ることで得るものが多いのです。

大事なのは，**自分の目で見て，自分で経験すること**です。

（会長） 昔は，学生は海外に行きたいとの想いが強かったように思いますが，最近は，彼らの評価基準で豊かな日本から出たくない，出る必要も無いと考えているものが多いようですね。

研究のレベルなどは日本の方が上なので，海外へ行く必要も無いという人もいるのですが，そのようなレベルの話しでなくて，異なったところ，異なった考えのところに行くことが大切なのですが。

（佐川会長） そうです，学生時代だから活かせることがあるので，それを活かさない手はないでしょう。

（会長） 語学能力を気にするものもいるのですが，やはり英語がしゃべれるというよりは，**話せる内容**だと思います。その意味でも**リベラルアーツ**は重要になり，その点は，いまの学生さんに求めたいですね。

ところで，スイスとなるとドイツ語を話されるのですね。

（佐川会長） まあ，完璧とは言えませんが、それなりに話せます。もちろん向こうの人は高学歴で英語は十分に話されますが。

おわりに：「七十にして矩をこえず」「友遠方より来たるありまた楽しからずや」

（会長） 最後に，皆様にいつも伺っているのですが，佐川様が大切にしておられる言葉や座右の銘などがあればお教えください。

（佐川会長） そうですね，好きな言葉は，論語の，

「七十にして矩をこえず」

「友遠方より来たるありまた楽しからずや」

もう既に 70 を超えてしまいましたが，まだ，矩(ノリ)は超えてないのです。もう少しはしゃいで頑張ってみようと考えています。また，友遠方より・・・は，これからもいろいろな人と交流し，人の繋がりを大事にしていきたいと思っています。この二つの文で，これからも楽しい時間を持てれば幸いです。

（会長） どうもありがとうございました。

【註 1】論語　「為政第二の四」

吾十有五而志乎學　　三十而立　　四十而不惑，

五十而知天命　　六十而耳順　　七十而從心所欲，不踰矩。

【註 2】論語「学而第一」

「有朋自遠方来 不亦楽 」

(参考)

佐川　博敏 （さがわひろとし） 様　　サンワ･リノテック株式会社　取締役会長

経歴

【生年月日】 1951 年 2 月 27 日　　生まれ

【主要略歴】

1973 年 3 月　　大阪大学工学部　石油化学科卒業

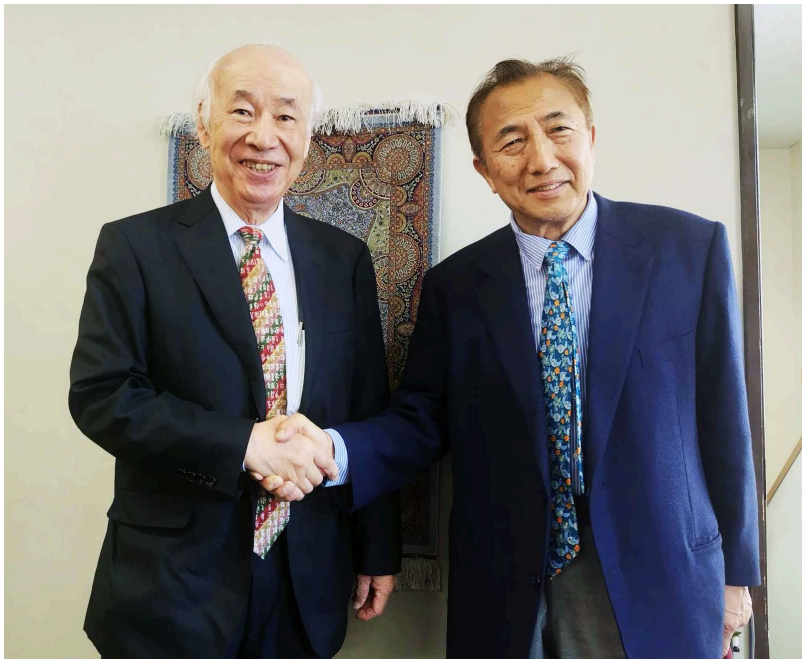
1975 年 3 月　　大阪大学大学院工学研究科　石油化学専攻　修士課程修了

1975 年 4 月　　日本チバガイギー株式会社入社（スイス本社）

1986 年 8 月　　株式会社 三和　入社
1995 年 5 月　　株式会社 三和　代表取締役社長
2003 年 2 月　　サンワ・リノテック株式会社設立　代表取締役社長
2021 年 7 月　　サンワ・リノテック株式会社　取締役会長

【社外・団体役員】

大阪建設機械リース協同組合　　理事
新日本刷毛ブラシ商業協同組合　副理事長



【インタビュー後記】

インタビューは，大阪市大正区のサンワ・リノテック株式会社の本社の会長室で行わせて頂いた。当日は大阪大学共創機構 渉外部門の吉田様の紹介でもあり，吉田様のお車で連れて行って頂き，インタビューにも同席して頂いた。佐川会長様は，同窓会活動でもお世話になっており，渉外の吉田さんとも親交深く，その縁でご紹介頂いた。

佐川会長様は，お父様が創業された刷毛ブラシの販売会社を継いで，アスベストショックを大きな契機として環境対策機器などのレンタル事業を発展させて，特徴ある分野で需要の高い事業展開を推し進められたが，現在の想いは，世界遺産や文化財の保存・修復に熱意を持って取り組んでおられます。文化財の Renovation は，佐川様が修士課程修了後に就職された日本チバガイギー株式会社でのエポキシ樹脂関係の開発研究の情報と知識が活かされており，佐川様のご経歴が活かされたかたちです。

修士時代に海外をバックパッカーで旅行され，2023 年の 10 月にはスペインやポルトガルをホステルや自炊で旅行されるなど，今なお昔と変わらない活動の姿と熱意あるお話の姿には驚かされます。海外の話しをされるときは熱い気持ちが感じられますが，更に，世界遺産や文化財の保存・補修の話しには活き活きとした語り口が感じられました。

佐川様は，感受性を大切にされ，道ばたに一輪咲く花に感動し，その生命力に驚くことが大切とお話しされています。学生さんには，我が目で直に見て，そして感じて欲しいことと，実際に見ることの重

要性を話されましたが，研究だけでなく，事業経営においてもその視点が重要と指摘されているのでしょう。

インタビュー後に難波近くで昼食をごちそうになり，そこでもスイスの山々や多くの世界遺産の美しさの話を楽しく伺いました。スイスはグリンデルバルドやマッターホルンを訪れ，子供をつれて散策したことがあるが，雪の山々の美しさは実に印象深い感じでした。グリンデルバルドでの散策道を歩くと，道端には高山植物が控えめに花を付けていて，その可憐さと厳しい気候に耐えて咲かせていることに感動しなければならないというのが佐川様の教えでしょう。

これまでのインタビュー記事はものづくり企業が多かったので，今回は少し違った内容になっているかと思いますが，人を大切にする経営理念，そして楽しくという願いは是非皆様に伝えたいものでした。

おいしい昼食の後，難波まで歩いて近鉄で帰宅しました。その時に乗った電車は，関西万博の「みゃくみゃく」のラッピング電車でした。

大阪大学工業会　会長
豊田　政男